

きよさと元気直送便

このコーナーでは、まちや地域の元気を生み出す様々な活動に取り組んでいる皆さんをシリーズでご紹介します。

安心・安全な地元農産物をまちの食卓に

いしかわ きょうじ かさい ふじお
石川教治さん・河西富士夫さん



「機械にたよらず、自分の手で確かめたものを作りたいと思ったんですよね」そう話すのは、神威地区で農業を営み、自家製にんにくの生産と販売を手掛けている、石川教治さん（神威西）と河西富士夫さん（神威南）。

「十数年前からずっとにんにくを作ってみたいと思っていましたですが、河西さんに話したところ、すっかり意気投合してね」と石川さん。現在、蒔きつけや収穫、出荷作業などを河西さんと共同で行っている。二人は、4年前から本格的ににんにくづくりを学ぶため、農業改良普及センター職員の指導や、斜里の農家で研修を受けるなど、栽培経験のない作物に試行錯誤を繰り返したという。生産しているにんにくは、にんにくの中でも高級な「ホワイト六片」と呼ばれる品種で、一片が非常に大きく、身が引き締まっているのが特徴。「青森から種を取り寄せてね、まずは種を増殖させるのに2年かかったんですよ」と河西さん。



「やはり、手作りということを得られる充実感、そしてお客様に与えるイメージが違うと思うんですよ」と石川さん。近年の農業は、大型機械による作業がほとんどだが、

二人は手作業にこだわり、蒔きつけや収穫などは、一切機械を使わず全て手作業で行っている。

昨年からは、町内商店などをメインに販売ルートも独自で開拓し、「きよさと産にんにく」として、販売を開始。産業まつりや上斜里コスモスロードで開催されている直売イベントにも出品している。

「手作業で行っているのがあまり量は作っていないのですが、町のみなさんにぜひ食べてもらいたいと思います。そして、これからも安心なものを町内の食卓に届けたいですね」と二人とも笑顔で話してくれた。

編集後記

▲清里にも遅い春が訪れ、農家の方々も蒔き付けのピークを迎えました。そんな中、石川さん・河西さんに無理を言って取材に応じてもらいました。▲にんにくと言えば青森県ですが、こんなに身近に栽培している農家の方がいるとは思っていませんでした。▲「地産地消」と言われていますが、清里で生産されたものが、家庭の食卓にならば機会がさらに増えて欲しいと感じました。

人のうごき（平成22年4月末日現在）

人口／計4,590人（+13）

男2,241人

女2,349人

世帯／ 1,879世帯

平成22年6月1日発行 NO. 622
発行／北海道清里町
〒099-4492
北海道斜里郡清里町羽衣町13番地

TEL 0152-25-2131
FAX 0152-25-3571
メール
kysomu@town.kiyosato.hokkaido.jp

HP
http://www.town.kiyosato.hokkaido.jp
携帯電話用サイト
http://www.town.kiyosato.hokkaido.jp/i/

